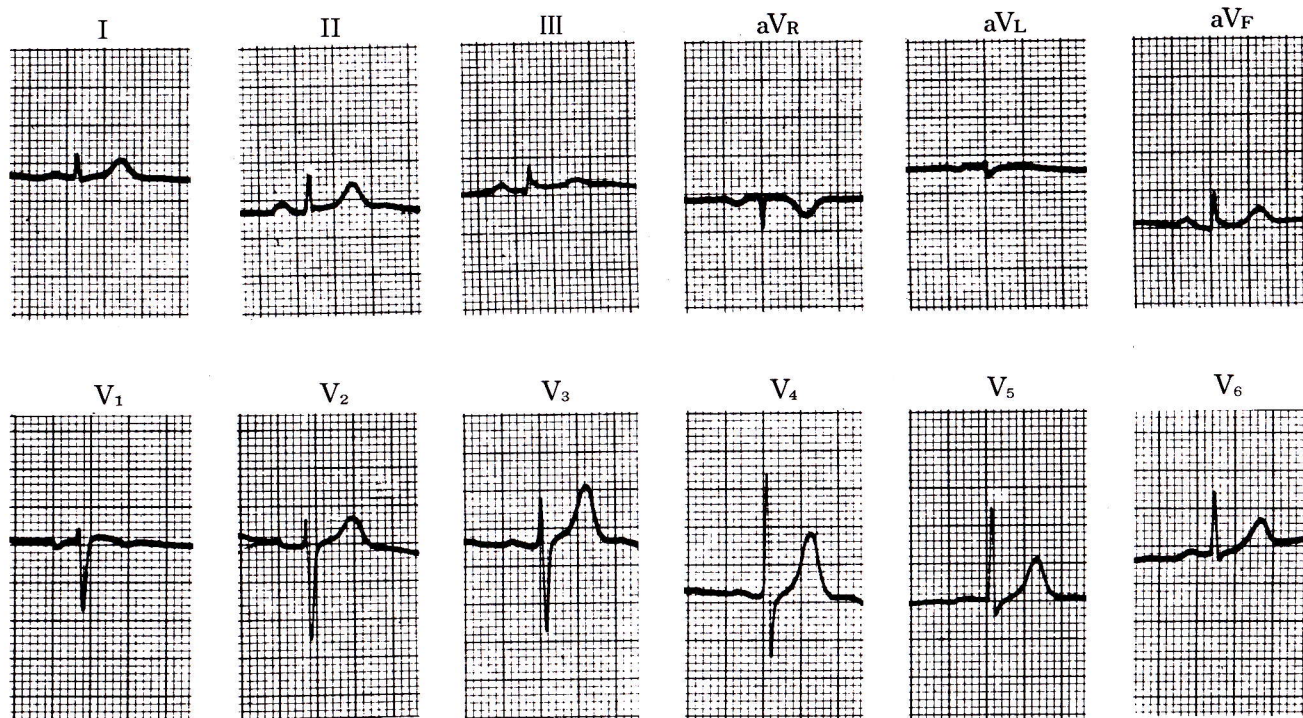


# 症例 24

●65歳 男

●慢性肝炎で通院治療中の患者である。



- 1) 肢誘導のQRS波振幅はどうか。
- 2) 胸部誘導のQRS波振幅はどうか。

## 正常（肢誘導のみの低電位差）

肢誘導のQRS波振幅はいずれも5mm以下であるが、胸部誘導では振幅が10mmを超えるものがある。肢誘導のみの低電位差である。

V<sub>1</sub>のP波は2相性であるが、P terminal forceは0.04 mm・sec以下であり、左心性P波の基準を満たさない。本心電図の診断は正常である。

### MEMO

#### 〈肢誘導のみの低電位〉

低電位差が肢誘導のみで認められ、胸部誘導では振幅が10mmを超える場合は四肢の高度の浮腫、進行性全身性強皮症などで認められるが、健常でも老人やQRS

ベクトルの向きによって生ずることもあり、これだけでは異常ということとはできない。